



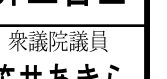
市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



衆議院議員
藤野保史



参議院議員
たけだ良介



参議院議員
井上哲士
衆議院議員
笠井あきら

新型コロナウイルス危機を乗り切るために

小中学校で20人学級へ

【砂田市議】 新型コロナウイルス危機のもとでは小中学校の統廃合の検討は凍結すべきである。コロナウイルスの感染防止のために、3密を避ける必要がある。分散登校などの工夫もしてきたが、この機会に20人学級をめざすべきではないか。20人学級にするために必要な教員数はどれだけ増やす必要があるか。



【教育長】 小学校は47学級、中学校は22学級、合わせて69学級がある。現在定数は40人だが、20人を下回っている学級もあるので、ざっくりとみて60人近くの教員増が必要となるだろうとみている。

【砂田市議】 日本教育学会は10万人の教員増を提案し、この機会に20人学級を求めている。国に対してぜひその実行を求めてもらいたい。

学習内容の精選を

無理な詰めこみを止めよ

【砂田市議】 例年通りの授業をしようと、土曜授業、夏休みや学校行事の大幅削減、7時間授業などで授業を詰めこむやり方では、子どもたちに新たなストレスをもたらす。子どもたちをゆったり受けとめながら、学びとともに、人間関係の形成、遊びや休息をバランスよく保障する、柔軟な教育が必要だ。そうした柔軟な教育は、子どもを直接知っている学校現場の創意工夫を保障してこそ、実施することができる。

【教育長】 「学習内容の精選」は重要だ。その学年での核となる学習事項を見定めて深く教え、それ以外は教科横断で学んだり、次年度以降に効率的に学ぶようにする。教科書全てを駆け足で消化するやり方では子どもは伸びない。

学校現場の創意工夫と自主性を保障する、学習指導要領の弾力化にふみこむよう求めたい。教科の精選では、こういうコロナの時期には、道徳や小学校の英語は外してもよいのではないかと、教師からの悲鳴が聞こえる。

憲法の本質から、教員の一定の自主性を認め、教育内容への国家的介入の抑制を求めている（最高裁学力テスト判決）。ここから、学習指導要領でも教育課程の編成権は個々の学校にあることが明記された。行政に付度（そんたく）せず、目の前の子どもたちのために何がよいか話し合っ決めていく学校現場を育てることは、現在の厳しい状況を打開するだけでなく、未来の希望ある学校をつくるために大きな力となる。



【教育長】

学校現場の創意工夫が大切なのは当然である。6月1日から学校を再開するにあたっては小中学校校長会で、繰り返し検討し、適切な感染防止対策を講じる一方で、授業時数の確保とともに子どもたちにとって楽しい学びの確保について検討してきた。修学旅行やいくつかの学校行事を中止せざるを得なかったのは苦渋の選択だった。その中でも小学校では二学期に運動会と学習発表会、中学校では二学期に運動会の時間を確保する。7限目授業については高校受験を控える中学生を対象とし、部活が終わる二学期に従来の補習に代わる授業として行うこととしている。土曜日授業も実施の予定はない。

各学校ではそれぞれの実情をふまえた教育計画をつくり実践している。しかし学校の自主性をもって道徳や英語を教科から外すなど、教師の判断でできるものではない。授業時数が確保できることから教科の精選はしなくても良いと考える。

平和教育で原爆写真展の巡回

【砂田市議】 広島市平和記念式典への生徒代表派遣は、修学旅行で被爆地を訪問している。市長は、平和教育の重要性は十分に認識されているが、修学旅行が中止で、それに代わる平和教育が必要でないか。もちろん、各学校での自主的な取り組みとすべきだが、たとえば、原爆写真展を、各学校に巡回させ、その機会に平和教育に取り組むのはどうか。

【桜井市長】 修学旅行の代わりとなる平和教育の実施については、提案いただいた原爆写真展の巡回そして平和教育の実施を、小中学校校長会で私から提案させていただきたい。

暑さ対策

給食配膳室にも大型冷風扇を

【砂田市議】 3密を避けるために、クーラーの活用で光熱費を抑制するな。

【教育委員会事務局長】 夏休み中も学校を開くので電気料金も増えるの見込み、熱中症事故を防ぐためにも空調設備の適切な使用を校長会で指導した。

【砂田市議】 特別教室とともに、各学校の給食配膳室の暑さ対策に、大型冷風扇の追加を検討できないか。

【教育委員会事務局長】 特別教室については夏休みでの授業実施に合うよう緊急的に大型冷風扇での対応を検討している。配膳室については、石動小学校のみ空調設備がある。ほかの学校についても、大型冷風扇での対応を検討している。

こころのケアを

【砂田市議】 こころのケアが重要だ。ある子は、楽しみ、生きがいにしていく部活、修学旅行が無しとなり、朝学校へ行けなくなったという話を聞いた。引きこもりの相談、居場所づくりについてどのように対応するのか。

【教育長】 休校中は担任が直接電話で話し合い、家庭学習の状況だけでなくこころや健康の確認もしていた。学校再開後、全体としては元気に登校しているが、なかには体調不良で欠席、保健室登校、登校渋りの児童が数名いると聞いている。各学校では全児童と個人面談や、特に気になる子にはスクールソーシャルワーカーに依頼している。

